

# 盛岡を発掘する

平成20年度調査速報

**あかやきどき**【あかやき土器】 土師器(はじき)と似ているが、須恵系(すえき)製作の技法で作られた赤色系の土器。ロクロを使って作られ、盛岡市内では9世紀から出土するようになる。

**あさばち**【浅鉢】 高さが口径の3分の1以上2分の1未満の土器の器形を浅鉢というが、明確な基準で分類はできない。おもに縄文時代の土器に使う呼称。

**あすふふ**【アスファルト】 日本海沿いの秋田山形新潟の石油鉱床地帯では天然アスファルトを産する。縄文中期から晩期にかけて、土器や土偶などの破損部の接合剤あるいは石鏝や骨鏝などの石器や骨角器の着柄用の接着剤として使用した。黒曜石とスイコハクなどと並んで、縄文時代における産地と消費地のあいだの物資流通の様相を示す資料ともなる。

**いこう**【遺構】 過去の人間が地面に残した痕跡。地下に埋没しているものばかりではなく、石垣や寺院などの建物の基壇、古墳の墳丘など地上で観察できるものも含む。

**いせき**【遺跡】 過去の人間活動の痕跡。遺構や遺物、遺物包含層のある場所。そのどれかが備わっていればよい。全国におよそ47万ヶ所が数えられ、盛岡市内にはおよそ750ヶ所が登録されている。文化財保護法では埋蔵文化財包蔵地と呼び、開発の前には発掘調査が義務づけられている。一般的には所在地や字名をもとに遺跡名をつける。

**いづつ**【遺物】 過去の人間活動の動産的な所産。土器や石器など過去の人間が加工・製作した人工遺物と、加工の痕跡はなくとも、鉱物や動植物の遺存体など、人間活動の結果もたらされた自然遺物の二つに分け

られる。

**いづつ**【遺物包含層】 土器などの遺物が含まれる土層のこと。雨などで土が流されたときに遺物が一緒に流されて堆積する場合や、不要になった土器などが捨てられて堆積する場合がある。

**おとし**【おとし穴】 穴状のわな。平面形は楕円・長楕円・円形などで、小さくままだが、長径2m前後、検出面からの深さ1〜2m前後である。底面に深い小穴を1個ないし数個もつものがあり、先端の尖った杭をたてて落ち込んだ動物を刺したと考えられる。

**かめ**【甕】 弥生時代以降の煮炊や液体の貯蔵に用いられた容器の名称。長胴甕・球胴甕など。

**かわらけ**【かわらけ】 土師器の系譜に連なる素焼きの碗・皿・杯形の土器。都市や城館、寺院などから多く出土する。灯明皿や、儀式・饗宴などに用いる酒杯・皿として使われた。都市型・非日常型の土器。素焼きで安価であることから、清浄の象徴として再使用しない慣習であった。権威の象徴として、儀式・饗宴の規範を実現するために用いられたものと考えられる。

**さんかく**【さんかく】 三角罫形土製品。多くは二側面と両端面になる柱状の土製品。無文の側面はわずかにくぼむものが多い。端面から長軸方向に貫通した孔をもつもの、孔がないものなどがある。縄文時代中期の北陸地方に多く、秋田・長野

など東日本に分布する。同形の石製品もあるが、使用目的や用途は不明。



甕(台太郎遺跡)



三角罫形土製品(紫V遺跡)

**せきぼう**【石棒】 縄文時代の磨製石器の一種。横断面が円形ないし楕円形の棒状の石製品で、両端または一端をぶ状につくりだしたものが多く。写実的な亀頭形につくりだしたものが多く、石棒が男根を表象したものであることを示唆する。使用目的には様々な説があるが、呪術的機能を果たしていたものと推定される。



石棒(大館町遺跡)

**たてあな**【たてあな】 穴を掘って墓(はこ)を掘った跡。穴を掘って墓(はこ)を掘った跡。穴を掘って墓(はこ)を掘った跡。



堅穴住居跡(台太郎遺跡)

**つき**【環】 古代の最も一般的な食器。碗より浅く、皿より深いもの。土師器や須恵器・木製品に多く見られる。時期や地域差で、丸底や平底、ふたの有無、高台の有無などの違いが見られる。



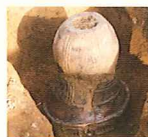
環(台太郎遺跡)

**とうす**【刀子】 現在の小刀やナイフにあたる小型で短い刀。使用用途は、木筒を削る文房具、工具、携帯用の短刀、包丁などであり、非常に多彩である。

**どこう**【土坑】 人が意図的に掘った穴のこと。埋葬(たむか)ごみ捨てに粘土採掘・掘立柱など、多様な用途が考えられる。

**はじき**【土師器】 野焼きで約700〜800℃の温度で焼かれたもの。縄文・弥生土器の流れをくむ素焼きの土器。赤く褐色系の色調を呈する。

**ふせがめ**【伏甕】 堅穴住居の床下に、底部に穴をあけた土器を逆さまに埋めた特殊な遺構。縄文時代中期に多くみられる。盛岡市内では、紫V遺跡のほか、大館町遺跡、柿ノ木平遺跡、上米内遺跡などで発見されている。出産の際の「胎盤埋納」または「乳幼児の埋葬施設」、住居を作る際の「地鎮」などのために埋められたという説がある。



伏甕(紫V遺跡)

**ぼうすい**【紡錘車】 長くつないだ繊維により糸をかけて糸とする道具。紡錘車の中心の孔に棒を通して、その棒に繊維を装着して、全体をコマのように回転させながら糸を巻きつけていく。形状は、円盤・球・円柱・算盤玉形などがあり、材質も土製・石製・鉄製など多様である。



紡錘車(台太郎遺跡)

**ほつたて**【ほつたて】 穴を掘り、そこに下端部を直接埋め込んで立てた柱で構成される建物。縄文時代から近世まで存続する。柱を埋めるために掘った穴を掘り方という。

**やじり**【鋸】 矢の先端につけて狩りなどに使用する。材質により石鉄銅など種類や形は様々である。

**【炬】** 火を焚いた場所。一定の場所まで火を焚き続けると熱で地面が赤く変色する。石で囲んだ住居跡、土器を埋め込んだ埋甕跡、複式炉、住居の床面に火を焚いた地床跡など、形態は多種多様である。調理、暖房、照明の機能をはたした。

おおだてちょう  
**大館町遺跡第81次調査** (大新町)

大館町遺跡は、縄文時代中期(約5,000～4,000年前)の集落遺跡としては岩手県内で最大級の規模です。およそ1,000年もの長期間にわたって営まれ、縄文時代の集落や社会構造を研究する上で非常に重要な遺跡であることから、平成12年に岩手県史跡に指定されました。今年度は遺構確認のための学術調査を実施し、縄文時代中期の竪穴住居跡10棟、土坑墓82基が見つかりました。土坑墓からは直立した状態の石棒(直径14cm・長さ61cm)や多数の土器・土製品などが見つかりました。今回の調査では、土坑墓がつくられた後に竪穴住居がつくられたことが確認されており、集落のうつりかわりを考える上で、重要な発見となりました。



土坑墓から出土した縄文土器と石棒

つなぎこいせき  
**繫V遺跡第36次調査** (繫)

繫V遺跡は市内でも有数の縄文時代中期(約5,000～4,000年前)の集落遺跡です。今年度は繫小中学校の増改築工事にともなう緊急調査をおこないました。昭和26年の繫小学校(当時)校庭整地工事の際に見つかった重要文化財の伏甕7個体の出土地点は今年度の調査区域のすぐそばにあたります。今回の調査では、縄文時代中期の竪穴住居跡10棟、縄文時代後期(約4,000～3,000年前)の竪穴住居跡3棟、土坑、柱穴等が多数見つかるとともに、土器や石器なども大量に出土しました。特筆すべきは縄文時代中期の竪穴住居跡2棟から伏甕5個体が見つかったことです。伏甕とは、竪穴住居の床面に土器を逆に埋めた特殊な遺構です。今回の伏甕の発見は、重要文化財の伏甕の出土状況を考える上でも貴重な手がかりとなるでしょう。



伏甕の出土状況

～今年度調査した遺跡～



**みたけ遺跡第1次調査** (みたけ)

今年度は、宅地造成にともなう事前調査をおこない、縄文時代の土坑5基、縄文時代早期中葉～前期初頭(約7,000～約6,000年前)の遺物包含層を確認しました。土坑からは時期を示す遺物が見つからなかったため、時期は不明ですが、土坑の形状から推測すると、動物を捕獲するための陥し穴と考えられます。見つかった遺物の多くは、狩猟・解体のための石鏃や削器、搔器などの石器です。



調査区全景

さんのうやま  
**山王山遺跡第12次調査** (山王町)

これまでの調査では、縄文時代中期を主体とした集落跡や、平安時代の竪穴住居跡などが見つかりました。今年度は、個人住宅建設にともなう事前調査をおこない、平安時代の竪穴住居跡3棟が見つかりました。畑等の耕作による削平がひどく、完全な状態で残っているものはありませんでした。竪穴住居跡の1棟から炭化した木材や焼けた土が出土しており、この住居は焼失したと考えられます。その他、土師器の坏や甕、須恵器の坏、刀子2点などが見つかりました。



竪穴住居跡から見つかった炭化した木材

せいなんちくいせきぐん  
**盛南地区遺跡群** (飯岡沢田・台太郎・細谷地・矢盛遺跡ほか)

盛岡南新都市整備(盛南開発)にともない、平成5年度より発掘調査が実施されています。これまでの調査では、奈良～平安時代の集落跡を主体として、中世・近世の屋敷跡や縄文時代の遺構が見つかりました。今年度は、台太郎遺跡・細谷地遺跡・飯岡沢田遺跡などの発掘調査を実施しました。

台太郎遺跡(第63次調査)では、奈良～平安時代の竪穴住居跡や中世以降の堀跡、近世の土坑墓などが確認されています。竪穴住居跡からは平安時代の土師器や須恵器、堀跡からは中世以降の陶磁器、近世の土坑墓からは古銭(寛永通宝)が見つかりました。



調査区全景(台太郎遺跡)

# 盛岡市内の主な遺跡と時代

	時代	年代	市内の主な遺跡	今年度調査遺跡	
原始	旧石器時代	約12,000～ 草創期	小石川遺跡(玉山区藪川)		
		約8,500～ 早期	大新町遺跡(大新町)		
	縄文時代	約6,000～ 前期	大新町遺跡(大新町) 館坂遺跡(前九年) 日戸遺跡(玉山区日戸) 新茶屋遺跡(山岸)	みたけ遺跡(みたけ)	
		約5,000～ 中期	上八木田遺跡(八木田) 畑遺跡(上米内)		
		約4,000～ 後期	大館町遺跡(大新町) 柿ノ木平遺跡(浅岸) 繫V遺跡(繫) 上米内遺跡(上米内) 川目C遺跡(川目) 湯沢遺跡(湯沢)	大館町遺跡(大新町) 繫V遺跡(繫)	
			約3,000～ 晩期	大葛遺跡(浅岸) 落合遺跡(下米内)	
			約2,300～	上平遺跡(猪去) 手代森遺跡(手代森) 川目A遺跡(川目) 宇登遺跡(玉山区川又)	
弥生・古墳	弥生時代	約2,300～	手代森遺跡(手代森) 一本松遺跡(下米内)		
	古墳時代	約1,700～ 4～7世紀	永福寺山遺跡(下米内) 薬師社脇遺跡(浅岸) 上田蝦夷森古墳群(黒石野) 竹鼻遺跡(上鹿妻)		
古代	奈良時代	約1,300～ 8世紀	太田蝦夷森古墳群(上太田) 百目木遺跡(三本柳) 台太郎遺跡(向中野) 西鹿渡遺跡(三本柳) 永井古墳群(玉山区永井)	台太郎遺跡(向中野)	
	平安時代	約1,200～ 9～12世紀	志波城跡(下太田) 台太郎遺跡(向中野) 前野遺跡(浅岸) 乙部方八丁遺跡(乙部) 林崎遺跡(下太田) 稲荷町遺跡(稲荷町)	志波城跡(下太田) 田貝遺跡(上鹿妻) 飯岡沢田遺跡(飯岡新田) 細谷地遺跡(向中野) 小幅遺跡(本宮) 山王山遺跡(山王町)	
中世	鎌倉～ 戦国時代	約800～ 13～16世紀	落合遺跡(下米内) 里館遺跡(天昌寺町) 安倍館遺跡(安倍館町) 玉山館(玉山区玉山)	矢盛遺跡(飯岡新田)	
近世	江戸時代	約400～140年前 17～19世紀	盛岡城跡(内丸) 南部家墓所(北山)		
近代	明治～ 昭和(初期)	約140～60年前 19～20世紀			

## 学び館セミナー「平成20年度調査成果報告会」

～繫V遺跡・大館町遺跡・山王山遺跡・盛南地区遺跡群～

■日時／平成21年3月1日(日) 13:30～15:00 ■会場／遺跡の学び館 研修室(定員80名)

■講師／遺跡の学び館職員 ※入場無料・直接会場にお越し下さい。